

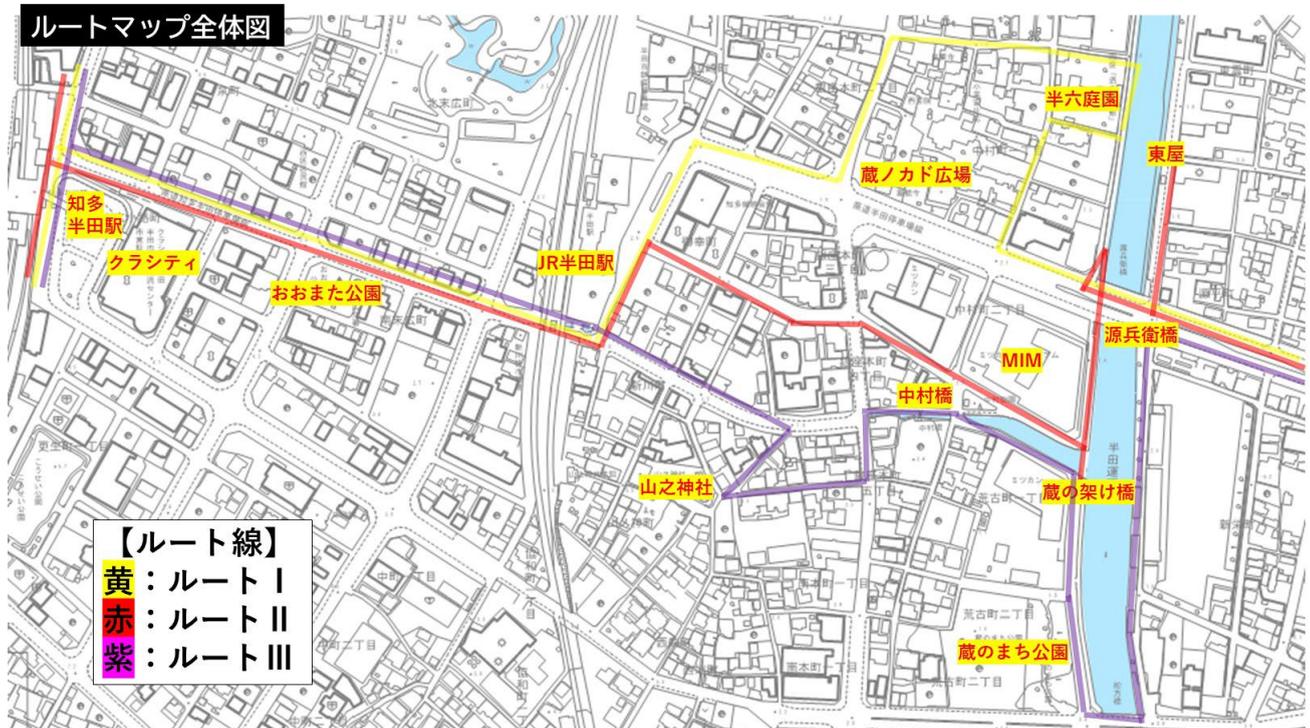
半田市中心市街地エリア 夜景ワークショップ

日時	令和6年10月7日（月）18:30～21:00
参加者	47名
内容	夜景づくりのレクチャーやまち歩きを通して、半田市中心市街地の「歩いて楽しい夜の景観づくり」を考えるきっかけをつくる。

概要

知多半田駅東ロータリーリニューアル構想検討ワークショップの番外編として行った、今回の夜景ワークショップには、約50名もの方々に参加していただきました。

ワークショップでは、はじめに半田市役所に集まり、夜間景観に関する基本的な考え方と他都市事例等についてレクチャーを受けた後、実際に半田運河周辺～JR半田駅周辺～名鉄知多半田駅周辺のまち歩きを行いました。まち歩きの後には、市民交流センターホールに場所を移し、今のまちの照明や夜景を見た感想、どうなったらもっと歩いて楽しい夜の景観がつかれるのか等について、6つのグループに分かれて意見交換を行いました。



1. レクチャー

■講師

一般社団法人地域力創造デザインセンター 高尾 忠志 氏

■主な内容

(1) 夜間照明を見るにあたって、配慮すべき7つの基本的事項について

- ① **快適な陰影**：都市の中で光を当てるべきところと、当てないところを整理する。
- ② **適性な色温度対比**：色温度は光の温かみを表現したもの。同じ明るさでも、青白い光とオレンジ色の光では印象が異なる。安全性や居心地の良さなど、使い分けも大切。
- ③ **グレアフリー**：グレアは不快な眩しさのこと。眩しい光源が直接目に入ることをできるだけ避け、間接照明で明かりを作ると、人間にとって快適で居心地の良い空間を作ることができる。
- ④ **鉛直面の明るさ**：道路沿いの街並みなど、道路に対し立ち上がっている面をうまく使って照らすと、少ない光の量で、街の雰囲気を作ることができる。
- ⑤ **演色性への配慮**：光の再現性ともいう。例えば石積みに光を当てると、石積みらしく綺麗に見えるなど、光がその物の見え方をきちんと再現してくれることも大事。
- ⑥ **高効率照明器具**：エネルギー効率の良い照明器具を使い、経済的に街を照らしていく。
- ⑦ **オペレーション**：時間や季節の変化に応じたオペレーションを組み込むことによって、1年を通して楽しめる。

(2) 事例紹介（長崎市、柳川市）

- ・長崎市では、街中全体の夜間照明の基本計画を作成し、1つ1つ丁寧に夜間景観を整備している。
- ・平和祈念像も眼鏡橋も、本来この町にあるものを夜もきちんと見せることがコンセプト。人が来たときに一番見てもらいたいものを考え、自然と視線がいくように光を当てている。
- ・柳川市では、川下り沿いの夜景を味わってもらうため、月明かりを感じられる場所や静かに通る場所など、ストーリーを構築しながら、夜景のシーンをみんなで考えた。また点灯実験も行い、基本計画の検証を行った。
- ・どちらの事例も、ナイトタイムエコノミーを狙った観光政策として夜間照明に取り組んだ結果、地元の皆さんの町に対する誇りや愛情を育むことにもつながっている。



歩く人を意識して照明を工夫している長崎市の事例（眼鏡橋周辺）

Bグループ



① 良いと思った光

- ・小栗家の和風の明かりなど、この周辺の町並みの明かりがすごく綺麗だと感じた。源兵衛橋周辺にも適用されると良い。
- ・半田駅横のガード下はとても良い。視界が狭いため、その前に期待が持てる。ここは鉛直面の光などを取り入れると良いのではないかな。

② 改善した方がよいと思った光

- ・下町通りは、小栗家の和風の明かりが通りの奥にあるため、そこに行くまでの雰囲気考えたときに、現状は、通りの上についている光が白くて強い印象を受けた。また、店舗の看板が真っ白く光っていて、通りが目立たなくなっていると感じた。
- ・クラシティ北側の階段沿いの明かりが離散的で、あまりいい波を描いてないと感じた。一方で商店街の街路灯の明かりは良いなと思ったため、建物側も道側の光の雰囲気を受け継げると良いと感じた。

③ 光をあてた方がよいと思ったスポット

- ・運河の柳と柳の間に照明があるが、暗い感じになっているため、柳の下などに設置した方が、柳が目立って綺麗だし、光も分散して良い雰囲気になるのではないかな。
- ・国盛の外観は、光を工夫してあてることで、もっと良い雰囲気がだせると思う。
- ・半田駅前に光も何もないため、せめて時計周辺だけは明るくなると良い。
- ・おおまた公園は、周りにしか光がないため、ベンチの下や中央などに光が欲しい。

Dグループ



① 良いと思った光

- ・運河より東側は、「夜景がすごくいい」、「眼鏡橋に似たスポットが良かった」などの意見があった。

② 改善した方がよいと思った光

- ・夜の雰囲気は良かったが、平和通りから運河までがちぐはぐな印象を受けたため、統一感のある光を面的に考えるとより雰囲気が良くなると思った。
- ・街灯の色が信号の黄色と似ている箇所があるため、交通事故の危険性がある。
- ・泉線の光について、普段の生活では、慣れていて気付かなかったが、改めて見ると、少し明るすぎるように感じる。
- ・知多半田駅と交流センター（クラシティ）を繋ぐ連絡通路は明るすぎるため、もう少し明るさを落としてもらっても良い。

③ 光をあてた方がよいと思ったスポット

- ・御幸通りからミツカンの裏に入る通りがわかりづらく、知らない人は先に進みにくいと感じた。半田運河までの導線を光で作れると良いのではないかと。
- ・公園は、どこも暗い印象を受けた。

Eグループ



① 良いと思った光

- ・運河にあるミツカンのマークのライトアップがすごく良かった。
- ・船方橋から源兵衛橋を見たときの景観が良い。
- ・料亭「蔵の味」にある低木の低い位置に間接照明があり、雰囲気良かった。

② 改善した方がよいと思った光

- ・運河の足元が暗い。特に運河東側の道は真っ暗で、歩いていて怖い印象を受けたため、足元に照明がほしい。
- ・蔵のまち公園の高い光は改善したい。良いと思った光でミツカンのマークを挙げたが、高い照明が邪魔だと感じた。
- ・光が明るすぎると感じる建物もあった。近隣店舗・事業所等も含めて統一感のある明かりになると良い。
- ・JRのガードをくぐり、知多半田駅に近づくと全体的に明るかった。ここはそこまで明るくなくてもいいのではないかな。
- ・今後ココロリンができるため、そこも少し照明を減らせると良いと感じた。

③ 光をあてた方がよいと思ったスポット

- ・運河東側にある柳を照らすと良い。
- ・源兵衛橋を下からライトアップしても良い。
- ・山ノ神の方は、鳥居が全く見えないので、少し光が入ると良い。

Fグループ



① 良いと思った光

- ・民家の横、運河沿いのライトアップ。鉛直面で温かみがある光の印象を受けた。
- ・蔵のかけ橋のライトアップ。
- ・クラシティの北側の階段沿いの照明について、波があって少し明るすぎるといった意見もあったが、近くから見ると温かみがあって、賑やかさはあるが明るすぎない雰囲気が良かった。

② 改善した方がよいと思った光

- ・蔵のまち公園は上からの光ばかりで、色は白い光というより、オレンジのような温かみのある色だったが、寂しい印象を受けた。公園の通路に沿って、足元に光があると可愛さや安心感があるのではないか。
- ・運河沿いにあるミツカンのロゴだけではなく、風景や鉛直面の光を使うと、より相乗効果があって雰囲気が良くなるのではないか。
- ・山之神社の鳥居は明かりが少ないと感じた。その奥にある建物もきちんと光が当たっていないと感じたため、運河周辺の荘厳な雰囲気をこちらにも取り入れてはどうか。

③ 光をあてた方がよいと思ったスポット

- ・運河沿いの柳は、ミツカンに負けないくらいライトアップした方がいいのではないか。
- ・中村橋は印象が薄いため、都会的な雰囲気と荘厳な雰囲気の橋渡しの場所として、ライトアップをうまく使うと、融合していいまちになるのではないか。

講 評

■地域力創造デザインセンター 高尾忠志

- ・皆さんで街を歩いてみて、多くの気づきや良いねという意見、改善できるという意見があった。皆さんの気づきを突き合わせ、今までの価値観でつくられてきた夜の景観をアップデートしていく、とても良いチャンスになる。5年程度頑張ったら、半田市の夜の街は見違えるのではないかと思えるポテンシャルをたくさん発見して頂いた。
- ・この場をきっかけに、行政側、市民側それぞれにできることを持ち寄りながら進めていけると良い。エリア全体もしくはルート全体として、魅力的な街をつくっていくために、長崎や柳川のよう
に共通のビジョンを持ちながら、官民で運営できると良い。

■市長

- ・皆さんが一生懸命半田市のことを考えてくださっている熱意や雰囲気本当に癒された。私1人でまちづくりをやってないんだと、皆さんがいるんだということに気付くことができた。
- ・今までは明かりのことは、気にかけていなかった何度となく歩いた半田運河の夜を、専門家のよう
にああでもない、こうでもないと考え、新しい価値観を手に入れた時間だった。
- ・参加者約50人の方は、半田の夜景に一番造詣が深いトップ50人だと思う。私達も一生懸命頑張っ
ていくため、ぜひ皆様方も一緒に作って頂けるとありがたい。どうかこれからもよろしくお願
いします。